



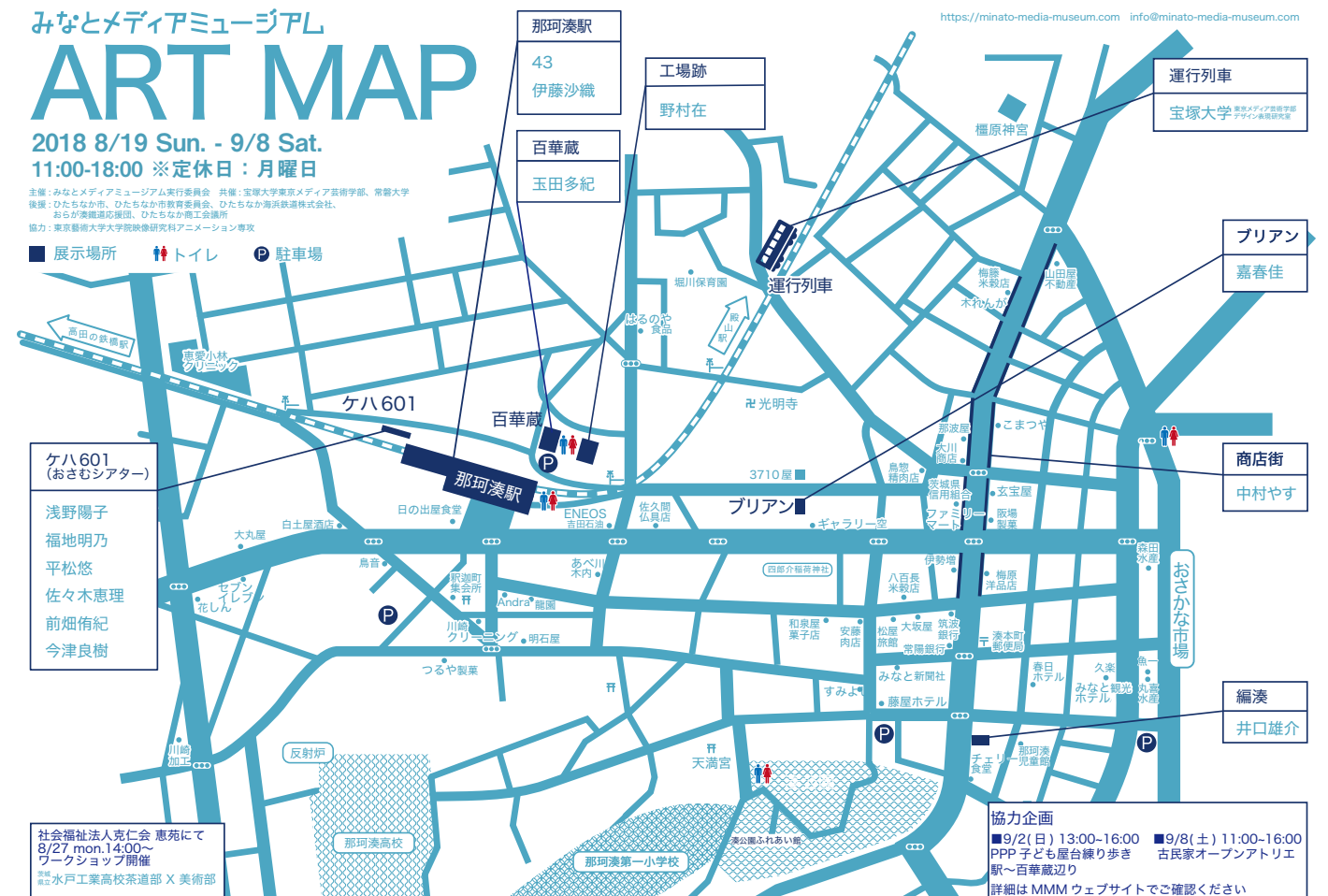
みなとメディアミュージアム 2018 記録集



INDEX

- 01 アートマップ / 開催概要 / 実行委員会挨拶
- 02 玉田 多紀
- 04 井口 雄介
- 06 野村 在
- 08 嘉 春佳
- 09 茨城県立水戸工業高等学校 茶道部 x 美術部
- 10 おさむシアター
- 11 伊藤 沙織
- 12 宝塚大学東京メディア芸術学部デザイン表現研究室
- 13 43
- 14 中村 やす
- 15 地域と連携したワークショップの取り組み
- 16 代表より / キュレーターより
- 17 チーフキュレーターより / MMM2019に向けて
- 18 協賛一覧
- 20 地域賞一覧 / MMM10年の歩み
- 21 MMMメンバー一覧

ART MAP 2018



開催概要

みなとメディアミュージアム(以下、MMM)は、茨城県ひたちなか市ひたちなか海浜鉄道湊線沿線を舞台に開催する現代アートプロジェクトです。出展された作品は会期中(8月中、約3週間)、那珂湊の駅やまちなかを中心に、ひたちなか海浜鉄道沿線や車輦内にも展示されます。ワークショップ等の運営も行います。「産(那珂湊地区商店街、ひたちなか海浜鉄道湊線)+学(主に大学教員、大学院生、大学生)+芸(アーティスト)」の三者からなる実行委員会により運営されており、芸術表現と地域との協働によるまちの活性化を目的として活動しています。2009年に第一回を開催し、MMM2018では10回目の開催となります。

主催：みなとメディアミュージアム実行委員会
共催：宝塚大学東京メディア芸術学部、常盤大学
後援：ひたちなか市、ひたちなか市教育委員会、ひたちなか海浜鉄道株式会社、おらが鉄道応援団、ひたちなか商工会議所
協力：東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻

実行委員会挨拶

今年のMMMは10周年にふさわしい作家を集めました。2009年、2010年に出品した玉田多紀、2011年のキハ203を舞台に大きな作品を残した井口雄介、2014年に湊公園や百華蔵前、旧セキナ化粧品などで展示を行った野村在のこれまでMMMの大賞を受賞した作家を招待して、作品を展示していただきました。

例年に比べて点数は少ないと感じる方もいるかもしれませんが、しかし、毎年来ていただいている貴方には、廻る時間を作品と対話する時間にあててほしいと思っています。

今年の作品は向かい合えば、それだけ作品と貴方のあいだに産まれるものが大きくなります。もちろん青いシャツを来たスタッフに聞いてみても構いません。わたしたちは自分たちで関わった作品を、自分たちのことばで対話したいと思います。

10周年の今回、作品数の点ではなく、向かい合った時間を提供したいと考えました。貴方にとって、ほんのひとときでもこれまでと異なる視点をわたしたちと体験してもらえれば嬉しいです。



百華蔵に潜む柔らかきもの

私のアートワークは資材であるダンボールに新たな命を吹き込み再生させることです。揉んだり剥がしたりとにかく手で探りながら命ある何かへと形を変えます。今回は那珂湊中学校美術部の皆さんに2日間かけてダンボールに命を吹き込んでいただきました。

“たまごから生まれたものとは”をテーマにそれぞれが思い思いのパーツを制作します。最後に組み合わせると想定外の形にたどり着きました。共同制作では予定していないことがたくさん起こります。全てを受け入れ取り入れながら作品に仕上げて行くことは、人が人と関わりながら生きることと似ていると感じます。

会場では、来場者が砂浜に見立てたダンボールチップを制作することができます。日に日に砂が増え表情を変えて行く、生きているような作品。ここには人の手を介した柔らかきものがたくさん詰まっています。

profile

1983年兵庫県生まれ 2007年多摩美術大学造形表現学部造形学科卒業
ダンボールの強度と柔軟性を生かした独自の技法による立体を制作
古紙ダンボールを生命の形に蘇らせることで新たな再生をテーマに取り組んでいる
国内外での展覧会やワークショップを開催中
2007年度 トーキョーワンダーウォール公募入選
2010年度 YOKOHAMA創造界隈ZAIMコンペ受賞
2010年度世田谷区芸術アワード“飛翔”生活デザイン部門受賞
2016年 文化庁芸術家派遣事業 おかざき世界こども美術博物館作品収蔵

■Webサイト
<http://tamadataki.com/>



作家のたまごになれるたまご

ご自由にお入り下さい(定員1名)
入り口は大きいですが出口は小さいです
どなたでも作家のたまごになれるます

井口 雄介



profile

略歴
1985年1月 カナダトロント生まれ
2013年3月 武蔵野美術大学大学院博士課程 修了 博士(造形)

個展(抜粋)
2014年 KALEIDOS@CPE RISE GALLERY /東京

グループ展(抜粋)
2009年1月 第12回岡本太郎現代芸術賞展 神奈川/川崎
2009年9月 神戸ビエンナーレ アートインコンテナ 入賞 兵庫/神戸
2009年9月 第3回赤坂メディア芸術祭 東京/赤坂
2013年3月 吉原芸術大サービス 東京/吉原
2013年4月 KEAT 第一回小砂環境芸術トリエンナーレ 栃木/小砂
2013年8月 RISE GALLERY グループ展 東京/目黒
2014年2月 RISE GALLERY グループ展 東京/目黒
2015年7月 不確定な存在展 Gallery blanka 愛知/名古屋
2015年11月 チャイムのなる森 奈良/北葛城郡

受賞(抜粋)
2010年10月 Tokyo Midtown Art Award 2010 佳作
2011年8月 MMM みなとメディアミュージアム大賞
2012年9月 六甲ミーツ・アート 奨励賞
2013年4月 KEAT 第一回小砂環境芸術トリエンナーレ 那珂川町長賞
2015年1月 CCC 静岡クリエイターズ

■Webサイト
http://yusukeiguchi.com



DELT-A-MINATO

那珂湊のこの地域との関係を見るとMMMという、「イベント」、「魚漁港」、「地域」の人々が「来場者(訪問者)」と関係を築ける場所である。これらの4つの事柄は同時にいくつかの関係が作用することでまた新たな形を産み出すことだろう。
今回起点となる那珂湊駅、漁港、そして展示場所の編湊が作品を含め来場者が訪れる場、というものを地図上で結んだ三点と、新たな点を結ぶことで出来上がる4面体を編湊の建物に組み込んだ。



Soul Reclaim Device (A portrait of departed sister)

Soul Reclaim Device (A portrait of my departed sister) は、写真を水に直接印刷し水槽の中でその写真の再現する装置です。私は「魂再生装置」という意味付けをしています。

約 20 年前に死別した私の姉の写真を、パソコンから水槽上部 のインクジェットプリンターに転送し、プリンターの出力部分に設置された水槽の水の膜に印刷する構造で、30分に1度動きます。

インクジェットプリンターから出力されたインクは、元来の写真通りに水の膜に印刷をし、インクの自重でゆっくりと時間をかけて水の中 に落ち、溶けていきます。

亡くなった人の写真を水にプリントすることで、もう存在しないものが水の中でゆらゆらと流体として視覚化され、同時に溶けていくことで、その故人の存在証明のようなものを、刹那的に表現できればと思います。

水槽のガラス面の縦横の比率は、4×5 の写真版の比率と同じ比率にしています。



profile

1979年 生まれ
2009年 Goldsmith, University of London、MFA卒
2013年 武蔵野美術大学、PhD卒

主な展示歴(抜粋)
2018年『鏡と穴』ギャラリーアルファエム、東京 / 2016年 Logo-Artレジデンス、ハンブルグ、ドイツ / 2016年『あいちトリエンナーレ』、岡崎、愛知 / 2013年『Additional fugitive』, Harmas Gallery東京 / 2011年『アートコートフロンティア』アートコートギャラリー、大阪 / 2006年 セビリン現代美術館、セビリン、ルーマニア / 2007年『Multiple Intimacy』イスタンブール、トルコ、など

■Webサイト
<https://www.nomurazai.com/>



制作支援 TFabWorks
<https://tfabworks.com/>

You are gone, You are here

あるフランス人の友人がこんな話をしてきたことがある。

日本には、我々ヨーロッパ人の求める「永遠性」とは違う「モメンタリズム(瞬間性、刹那性)」というものの価値、美の価値がある。「もののあわれ」という日本語を知った時に、君の作品をより理解した気がしたよ、と。

当時不思議に思ったのは、私の作品は明らかな日本性(ジャポニズム、オリエンタリズム)を意識したことはあまりなく、むしろ意識的に(素材的に)それを避けてきた。

にも関わらず、彼がそのことを伝えてきたことに驚いた。

本展示での新作は、「YOU」という文字を型取り、中身を焼いて外側だけ残す、というものだ。この作品に用いた素材の断熱材(発泡スチロール)、熱成形樹脂、YOUという文字、そのどれをとっても日本らしい素材ではない。(日本らしい素材というものが存在するかも怪しいものではあるが)

私は最初からこの作品に、むしろ微かながらでも、希望のようなものを与えたかった。君は死なない、ということ。

たとえこの肉体が減びようと、「何か」は残っていくはずだと。

たとえその何かが脆く儚く弱いものだとしても、たとえ朽ちていこうとも、外殻のようなものは少しずつ綻びながらも、何らかの形で残ってってくれるだろうか、と。

そもそも、物事は全て朽ちていくという立場から作品を作ってきた自分にとって、このか細い「希望」はとても不安定で頼りない。本当にわずかな希望にすぎるようなものでむしろ祈りに近い。

ではヨーロッパ人の彼が言ったように、これが「日本的もののあわれ」なのだろうか。消えていきながらも、しかしそこに何かが宿る、残るという考え方が。そこにすぎる何かか。

私はむしろそこに互いの永遠性の解釈の違いが存在するのではないか、と考えてみる。

つまりヨーロッパにおける神の御前においての魂の永遠性と、わたしの考える命の輪廻的な刹那性は違うようでいて、実はどこか遠くで似ているのでは、と。

「祈り」とはそういうことなのかもしれない。「You」という文字にしたのもそういうことなのかもしれない。タイトルに『You are gone, You are here』としたのも、そういう「祈り」があったからだ、たとえそこに神はいなくても。

思えば私は以前から作品のタイトルにHereという単語をたまに登場させてきた。10年以上も昔に車椅子を型取りした作品には『Here is saturated by Emptiness』と付け、本作品も『You are gone, You are here』と付けた。この場合のHereとはその作品の置いてある場所なのか、それともどこか特定の「場所」なのか、と聞かれたこともある。多分、そのどちらも正解だと思う。

きっと私の作品にとってのHereが、全ての人間にとってのHereになれば、と、これとても脆い希望ではあるが、どこかでそう強く願っているのかもしれない。



Lightfigure (12 seconds)

Lightfigure シリーズは、線香花火に火をつけた瞬間から、消えるまでのプロセスを超長時間露光(長時間、カメラのシャッターを開いて、超微量な光で撮影)している写真作品です。

2015 年から 2016 年にかけて制作し、約 100 枚のシリーズで、表面には光を透過する乳白色の亚克力板に、裏からネガフィルムを印刷する方法を用いて、それを大型のライトボックスに入れ、ネガ版のまま鑑賞者が見えるように展示をしました。



月日を漕ぐ

わたしたちの今日にはこれまでに生きてきた日々の時間が繋がっている。
時に薄れ変化し更新されながら記憶は繋がっていく。

身に纏う衣服には、着ていた誰かの日々の痕跡が蓄積されている。
那珂湊で集めた古着を用い、この土地に生きる人々が毎日着実に積み重ねてきた時間や
記憶、思いを舟の形に託し、これからの一瞬一瞬に生まれる新しい記憶へと続いていく
様を表す。

profile

筑波大学芸術専門学群構成専攻総合造形領域在籍中。2016年スウェーデン王立美術大学交換留学。
IAG AWARDS 2018 / 個展「脈が生まれる場所」(2018年・スタジオ'S)/
SHIBUYA AWARDS 2017 / ワークショップ・展示「光を紡ぐ」(2017年・筑波大学附属病院)
糸や布・古着を編み込んだ立体・インスタレーション作品を中心に、他者と自身の間に存在する境界や、時間・記憶など、目に見えないものを表現する作品を制作しています。

■Webサイト
<https://h27yoshi.wixsite.com/harukayoshi>



真夏の昼の呈茶会（茶道部）とアニメーション上映（美術部）

今年度も地域のイベントに参加したいと考え応募しました。
昨年度は、ひたちなか市の恵愛小林クリニックの関係者及び利用者の方々と一緒に「ものづくり体験」を実施しましたが、今夏は本校茶道部員の呈茶会と美術部員のGIFアニメーション上映を行いました。

おさむシアター

「ケハ601」は、1960年新潟鉄工製のステンレス気動車。そのレトロ車両が映画館に大変身！中には列車の座席に座って映画の旅を楽しめる唯一無二の空間が広がっています。モチーフは湊線の駅猫「おさむ」から。

協力：東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻



モフモフィクション



今津良樹

1985年静岡県浜松市生まれ。
2018年東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修了
<受賞歴>
第13回広島国際アニメーションフェスティバル コンペティション 入選
TAF2010第9回東京アニメアワード公募部門 東京ビッグサイト賞(企業賞)

わたしルール



前畑侑紀

自分が小さい頃に思っていたこと、感じていたことを
気楽に楽しくアニメーションにしてみました
「アホだな〜(笑)」
と温かく見守っていただけると嬉しい限り！
東京藝術大学大学院映像研究学科アニメーション専攻在籍

わたしとあさみちゃんとベロベロおじさん



佐々木恵理

1995年千葉県出身。
現在、東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻在籍中。
イラストレーション、まんが、アニメーションをたのしく制作している。

たいふう14ごう



福地明乃

1993年沖縄生まれ。
2018年東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修了。
HP:<https://www.1kinofukuji.com/>

花とラルバ



浅野陽子

1993年 福岡県生まれ。
2015年 神戸大学発達科学部人間表現学科卒業。
2018年 東京藝術大学大学院映像研究科
アニメーション専攻修了。

毎日は踊りたいことだらけ



平松悠

2009年女子美術大学芸術学部デザイン学科卒業。
会社勤めを経て、2017年から東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻在籍。
出身地東京。アニメーション、イラストを中心に様々な分野で活動中。

伊藤 沙織



かっぱのきもち / おひとついかが

ちょっと上を向いて、ただ座っているだけの河童。
「何を見ているの？」と目を覗いて聞いてみる。
目の前を通り行く人を見送っているのか、空に浮かぶ雲の行方を見送っているのか。
誰かが来るのを待っているのか、雨が降るのを待っているのか…。
答えてはくれないけれど「となり、あいてるよ」とでも言いたそう。
ひとりでは一っと座っているのも好きだけど、いつ誰か隣に来てても良いように、いつでも隣を空けてちょこんと座っている。
河童の見つめる先には何があるのか。何を感じ、何を考えそこに座っているのか。そんなことを想像しながら見てほしい作品です。
ぜひ隣に座ってそこに流れる時間を一緒に感じてみてください。
この作品を見た人がちょっと笑ってしまったたり、優しい気持ちになれたらいいなと思いながら制作しました。

profile

多摩美術大学 美術学部 工芸学科 金属専攻 卒業



ヘッドマークデザインワークショップ

那珂湊第一小学校ワークショップにて4年生を対象に、木材合板とカラーフェルトを用いて立体的に制作するヘッドマークデザインワークショップを実施しました。ヘッドマークは、那珂湊駅のマスコット猫「おさむ」と「ミニさむ」をモデルに4タイプ制作。のひたちなか海浜鉄道の協力により、ワークショップ終了後から開催されるMMM2018の期間中、営業列車に取り付けて走行します。



BANKOKKI

毎年、那珂湊第一小学校にて旗をつくるワークショップを行っています。旗は、家庭で余っている布を生徒に持参してもらい、一針一針縫って制作しています。今年で3年目となり、旗の総数は181枚となりました。

旗にはおおそ意味があり、その使用方法によって、象徴であったり、目印であったり、装飾であったりします。観客席の応援団が持っているあの大きな旗は、その団体の“象徴”として、ギラギラした太陽の下、ねっとりとした空気の商店街で目につく氷の字の旗は、シャキシャキの冷たい食べ物の“目印”として、ある晴れた日、校庭に吊るされた色とりどりの旗の連なりは、非日常を演出する“装飾”として、の意味を強く持っています。BANKOKKIは1つ1つの旗を小学生に制作してもらい、その個性ある旗をしばしば笑みを浮かべながら良く眺めて並び方を調整し“万国旗”の形式で展示する作品です。それを毎年繰り返します。回を重ねていくほどに、数量も、色や柄のバリエーションも、制作してくれた生徒の数も増えていきます。象徴、目印、装飾、そのどれかの意味に特化しない個性ある旗の集まりは、大きなうねりとなって、この街の新たな意志の表れのように成長していくことと思います。また、制作してくれた生徒は後に、中学、高校、大学生、社会人となって、旗を見ることになります。生徒がBANKOKKIで体験した記憶はその旗とともに在り、その記憶の糸は毎年密かに結ばれます。続けていくとは、その結びつきを作っていくことのように思います。その結び目(旗)を、目に見える形に整えて、ここに展示しました。

profile

視点が変わった その先に在る『何か』アートでも建築でもプロダクトでも・・・誰もがその『何か』を見るためのきっかけを私たちは研究しています



那珂湊はいいぞ！2018

2016年のワークショップ形式ではなく、テーマそのものである「那珂湊はいいぞ！」という言葉をストックに表現した。MMM開催期間中那珂湊の商店街に延々と同じフラッグがはためき、しつこいくらいに「那珂湊はいいぞ！」と訴えかける。車道を走る自動車、自転車から見ると視界の端に延々と入ることになり、一番オススの鑑賞方法である。

なお、作者はガルパンおじさんである。「ガールズ&パンツァー」は隣町大洗が舞台じゃないかとおっしゃるかもしれないが、登場キャラクターにはひたちなか市出身という設定のキャラクターも複数存在するので関係ないわけではない。

ガルパンはいいぞ。！

profile

大阪生まれ
筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻総合造形分野修了
常磐大学人間科学部コミュニケーション学科准教授
現代美術家

近年はワークショップを中心とした創作・プロデュース活動に移行しつつある

MMMでは、アーティストや学生を中心としたワークショップ活動も多数実施しています。2018年現在、ひたちなか市内には大規模な美術館やアートスペースは残念ながらありません。子どもたちにとっては、美術に積極的に触れる機会が少ないのが現状です。そこでMMMは、市内の児童に美術に親しんでもらうことを目的としてワークショップ活動に注力しています。市内の高校生と共同でワークショップを実施することもあり、アーティストと子どもたち、スタッフがともに作品を作り上げる場としても機能しています。難しいという印象を持たれがちなアートの分野ですが、自ら制作に関わることでそのハードルを下げることに繋がればと考えています。

常磐大学のM4(みなとメディアミュージアム水戸)は通年で活動しており、那珂湊の商店街で行われるドゥナイトマーケットや県内美術館で、児童向けのワークショップを実施しています。



那珂湊第一小学校ワークショップ

2015年度から始まった那珂湊第一小学校でのアートワークショップ活動も2017年度で3回目の開催となりました。初年度からこれまで、累計約300名の児童に作品制作の体験を積んでもらうことができました。学生スタッフ主体で企画がスタートし、今年度も43、宝塚大学東京メディア芸術学部デザイン表現研究室の協力により、より完成度の高い作品を、児童、アーティスト、スタッフの協力で作り上げることができました。

こうした経験が、この街で暮らす子供たちの考える力、つくる力を育むことにつながることを願っています。

活動の継続をあたたく支援してくださった、那珂湊第一小学校の児童のみなさん、保護者の皆様、先生方に御礼申し上げます。



玉田多紀 + 那珂湊中学校美術部ワークショップ

「百華蔵に潜む柔らかなきもの」をテーマに、2日間かけてワークショップを行った。まず6月21日に那珂湊中学で玉田と美術部顧問、生徒が顔合わせし、その後テーマ設定を共同で進めた。その後「柔らかなきもの」というキーワードで制作することになり、8月18,19日に制作を行った。玉田は自身の作品について「私のアートワークは資材であるダンボールに新たな命を吹き込み再生させることです。揉んだり剥がしたりとにかく手で探りながら命ある何かへと形を変えます。」と述べており、ワークショップではその説明とともに個別に話し合いを行い制作が進められた。各生徒の完成作品は、玉田の作品も含めて百華蔵での共同インスタレーション作品としてレイアウトを行い展示された。



MMM2018 代表より

今年で記念すべき10周年を迎えたみなとメディアミュージアム(以下MMM)の代表を務めました、山田萌結です。代表になって1年、でもMMMは10年。そんな私の1年は、みなとメディアミュージアムの本質を否応無しに写し出すものでした。

前代表から「代表をしないか」と話を受けたことをきっかけに、MMM2018代表としての一年間はスタートしました。それからというものの、10年間の積み重ねを大事にしつつ「私たちだからこそできる」というオリジナリティを求め、いろいろな企画に挑戦しました。本書の新入生企画やアプリ開発、フィールドワークに毎月必ず行く、会期中に毎日ブログ更新するなど、新たな挑戦をする中でスタッフのモチベーション向上やオリジナル性の追及を図りました。

また今年は、三年目を迎える那珂湊第一小学校の授業時間をお借りして行ったワークショップ、那珂湊中学校の美術部員のみなさんと作家の玉田多紀さんで作り上げた作品、水戸芸術高校の美術部と茶道部と行った共同のイベント。学校三者との連携も図り、より地域に密着できるMMMを目指しました。さらに、常駐時の際には、作品一つ一つと対話し、来場者の方々と互いに作品の感想を語り合うことで、細部に込められた意味や作品を楽しむ多角的な視点を学ぶことができました。

こうして、やったことを述べていけばいくらでもあります。MMMはそんなに完璧な団体ではありません。まず、衝撃的だったのがあいさつ回りの際にMMMを知らない人が多かったことです。10年継続してきたことはすばらしいと思いますが、宣伝の不十分さや、地域に根ざす活動も深さや相互理解が達成できていません。次に、一部のスタッフで抱え込み、他のスタッフや地域の方々に甘えきれずパンクしてしまったことです。そのせいで周りの方々にご迷惑をかけてしまった件はMMM代表として反省すべき点が多いです。こうした構造は昔からあるようですが、悪しき伝統は絶ていかねばならないと痛感しました。

以上のようなMMMの良さや反省点を生かし、来年以降もMMMという線路を続けていきたいです。また、来年に向けて、月に一度のミーティングとフィールドワークを充実させたいです。さらに地域に根ざしていくには、その地域について熟知している必要があるが、スタッフの中でMMM以前に那珂湊にゆかりがない人が多い。よって、スタッフ自身が何度も足を運ぶことで那珂湊でのストーリーや知識を増やしてほしいと考えています。また、全く関わりがなかった人にとっても、MMMでの活動を通して那珂湊が思い出深い土地になるくらい、濃い時間にし、外から来た者だからこそわかる那珂湊のよさの発見や共有もしていきたい。ミーティングに関しても学生スタッフだけ出なく、作家さんや地域の方々も巻き込めたらと思っています。

最後になりますが、今年も開催から撤収に至るまで多くの方に支えていただいているからこそMMMは成り立っているのだと実感するシーンが多く見受けられました。この場をお借りして、今まで支えてくれたスタッフ、作家さん、そして地域の方々に感謝申し上げます。これからも、MMMが更なる成長を遂げられるよう尽力してまいりますので、どうか末永くよろしく願いいたします。



MMM2018代表 山田萌結

MMM2018 キュレーターより

大学に入学してすぐの5月、はじめて那珂湊に来た日のことは今でもよく覚えています。海の近くに住んだことがなかったので、電車を降りてすぐに吹き抜ける潮風が新鮮でした。それから二年経った今年、みなとメディアミュージアムは10周年を迎えます。みなとメディアミュージアム2018では、過去のMMMに出展し大賞を受賞したアーティストの方々を招待しました。那珂湊駅からすぐのコミュニティスペース「百華蔵」に玉田多紀さん、その正面の工場跡に野村在さん、今年新しく生まれた「ゲストハウス編湊」に井口雄介さん。三名の作品展示をメインとした、公募/継続出展のアーティスト合わせて計10組の作品展示です。

「那珂湊とアートが大好きです。」2017年の記録集に書いたその言葉は今も変わりません。はじめは様々な巡り合わせで参加したMMMという活動も、一年経ち、代表を経験し、後輩も増えていく中でわたしの学生生活の中心になっていきました。那珂湊で出会った尊敬できる方々に導かれたことを、幸せに思います。2018年はアート関連の学生リーダーとして、学生キュレーションチームのメンバーとともに作品やアーティストに私たちなりに向き合ってきました。

今はコミュニティスペースとなっている石蔵に現れるのは玉田多紀さんの作品『百華蔵に潜む柔らかきもの』です。商店街の皆様にも多大なるご協力を賜り集めた段ボールを使い、那珂湊中学校美術部の皆さんと一緒に作品は創り上げられました。美術部の皆さんが制作した思い思いの「柔らかきもの」は、玉田さんの手によって段ボールの砂浜に流れ佇みます。玉田さんの作品『作家のたまごになれるたまご』は、砂浜の上「柔らかきもの」たちの足跡を遡った先にあるかのようです。暗い広いたまごに入り、作品のつくりあげる空間の一部となっていくにつれ、この場所にいる「柔らかきもの」たちが息を潜めながらもしかし確実にうごめているような気がしてきます。そして、造形物が命を宿していることを感じた瞬間、同時にそれらが段ボールであるという事実と直面し、わたしは驚くのです。百華蔵を出てすぐ前の大きな建物が、野村在さんの作品展示場所です。『You are gone, You are here』『Soul Reclaim Device (A portrait of my departed sister)』『Lightigure (12 seconds)』の三点が存在感をもってそこにあります。野村さんの作品に向き合う時、わたしは、わたしたちが持つ二つの世界のことを考えます。それは、「ある世界」と「ない世界」のことです。わたしたちは「ある世界」に生きていますが、しかしそこにあるものは全て「ない世界」に向かっていきます。水にプリントされるポートレイト、外郭は残り中身は燃えたY・O・Uの文字、写真に残された線香花火の一生。野村さんの作品には、「ない世界」に向かっていくものの存在が強くあらわれているような気がしてなりません。そこでわたしは、「ない世界」に向かっていくことを感じながら同時に、それらが「ある」ことの奇跡や願いを思います。

商店街を抜けると井口雄介さんの作品『DELT-A-MINATO』が見えます。那珂湊に新しく生まれたゲストハウス編湊。その屋上に巨大な鉄筋の三角錐が突き刺さりました。作品を目にした時、何かを考える前に「「！?」という衝撃があります。それは言葉よりも早い反応で、鑑賞よりも先に「出来事」が起こったように思います。何気なく過ぎていければ見上げなかったであろう、見上げたとしてもその景色すら記憶しなかったであろう編湊の屋上が、まるで描かれ創り上げられた絵のように、非日常的で刺激的な風景としてわたしの目に焼きつきます。作品がなくなり、何年か経って編湊に立ち寄った時、わたしはまたその屋上にこの風景を思い起こすのでしょう。MMMを引退し、大学を卒業してもなお、那珂湊を訪れ編湊の屋上を見上げれば、三角錐の創り出した場の衝撃を感じることができるということをととても幸せに思います。

「アートは地域を活性するか」那珂湊の皆さんに支えられながら、恩返しをしたいと思いながら、わたしは何かを返しているだろうか。そのことばかりを苦しく思い続けていました。アートなんて結局のところ社会を変えないじゃないか、理想主義にすぎないじゃないかと友人は言います。もしかすると本当にそうなのかもしれません。しかし、少なくとも今のわたしは友人に、「それでもアートは自分を変える」と言います。あなたやわたしという一人の、生身の人間を変えていく力をアートは持っています。作品は何も与えてはくれませんが、問いかければ必ず応えてくれます。そういう点で、少しずつ確実に何かを変えていくでしょう。しかしやり方は考えなければいけません。みなとメディアミュージアムはこれからも模索しながら進み続けていくことと思います。

この場を借りて、MMM2018に関わってくださった全ての方に、そしてわたしがMMMで活動した三年間お世話になった全ての方に、心よりの感謝をお伝えします。本当に、本当にありがとうございました。

MMM2018キュレーター 高田彩加

MMM2018 チーフキュレーターより

観るひとにとって、アートとは直接「癒す」ものや「美しい」ものではないと考えている。経過や結果がそうであったとしても、それは鑑賞体験の回路が組み上がっていたり、作品との相性が非常にいいひとなのかもしれない。作品を体験・鑑賞することで、仮に癒されるとか美しいと感じた、もしくは物足りなさであったり、不満であったり、涙であったり、哀しさであっても、なぜそう感じたのかを考えてみてほしい。

私が考えるアートとは、新しい視点・感覚・思考と出会うことだと思っている。それが言語であるか、非言語であるかは問わない。ただ、何かを感じるその経路にこれまでの経験や知識から外れた「なにか」、つまり作品と鑑賞者のあいだで起きたことが重要になる。そこで作品を体験するあなたは、作品を鑑賞するとともに、それだけではなく自分自身とも向き合って対話していることになる。

今年は10回目の開催ということで、これまでの公募によって多くの作家に那珂湊の様々な場所で展示してもらうのではなく、これまでのMMMが培ってきたものの結晶を、じっくり観せようと前代表、そして現学生スタッフのキュレーション担当である高田と話し合った。これまでのMMM、特に私が関わった4年間では、公募を中心として若手の作家を対象とした、展示の機会としてギャラリーや美術館のようなホワイトキューブではなく、様々な制限は多いが、空間と作品が関係したときには、作品の魅力が増す場所の提示として考えてきた。ただ、実際に展示をしてみると、展示空間そのものがとても強く、作品が飲まれてしまうこともあった。それほど生活をしている空間は多くの情報があり、それだけでなく時間が堆積していて、とても強い場所なんだと感じる。那珂湊は人や自然が作り上げてきたものの大きさが沁みる。那珂湊で展示をするのはとても面白いが、難しい面もある。ひたちなか市は美術館などがなく、アートが身近にある環境ではない。だからこそ那珂湊の子どもたちに、アートが身近になるように多くのワークショップや企画も重ねてきた。

今年のMMMはとにかく素晴らしい作品を展示することのみに注力した。作品数は例年より少ない。しかし、その分長く、深く空間に浸ってもらいたいという考えだった。結果、展示された作品は胸を張って皆様に観ていただけるものになった。作家の意図とは異なるかもしれないが、私が感じた作品について少し書き記したい。

那珂湊駅裏のイベントスペース「百華蔵」において展示した玉田多紀『百華蔵に潜む柔らかきもの』は、すべて那珂湊のダンボールで出来た作品空間である。那珂湊中学校の美術部と連携したワークショップで、「柔らかきもの」をテーマに造形作家である玉田は制作を行った。7月に神奈川で開催された個展『ガラパゴスの生き物たち』では、玉田作品の特徴のひとつでもあるリアルな造形の生き物たちが地面から天井まで縦横無尽に展開されていた。今回の百華蔵では「ダンボールの砂浜に現れた巨大なたまごから産まれたもの／それは血の通ったやわらかきもの」ということばで表現された空間だった。2010年にMMMに阿字ヶ浦に出展した『よみがえる海竜』と同様に、海浜鉄道湊線の海のイメージが、砂浜となって現出している。今回は会期中にダンボールから砂浜を鑑賞者がつくりだす形式として、空間を可塑性のあるものとした。玉田の特徴はリアルな造形だと書いたが、それに加えてことばの表現に力があることを個展と今回のMMMの展示を観て感じた。玉田は短いセンテンスを用いていくつものイメージを提示してくる。『ガラパゴスの生き物たち』では「ガラパゴス」の字義的な印象から作家本人の意志と姿勢を見せた。今回の『百華蔵に潜む柔らかきもの』では、「やわらかきもの」をキーワードとして、ダンボールという素材の可塑性や、たまごの中に潜み、そして出てくるもの、そして中学生が生み出した柔らかいというイメージと、それを支える砂浜のモチーフ。まるでマインドマップのようにことばのイメージから広がったものが、目には見えずとも(つまり潜みながら)現出していた。どのような角度からでも受け取れるイメージと作品の中に、作家の意図と意志が潜んでいる空間となった。

井口雄介『DELT-A-MINATO』は2018年に那珂湊にオープンしたゲストハウス「編湊(あみなと)」の建築を貫くように設置された立体作品である。鑑賞者は編湊をのぞむ様々な角度から作品を覗きこむことができる。高さのある湊公園からであれば屋上の作品の様子が遠目ながら見えた。作品を間近で観るためには、編湊に宿泊するなどの体験が必要だった。井口の今作品はその場所できち成立しない構造を持っている。鉄で構成された立体は編湊の建物の屋上から斜めに刺さったように映る。まるで空から突然降ってきたかのように見えるかもしれない。建物を下から観ると、場所によっては電線と被るかもしれない。

また、写真のように空から観ることができればと感じるひともいただろう。この作品はひとにとって見える／見えないという感触が重要となってくると考える。美術館の展示室であれば多くの立体作品はどの角度でも見えるかもしれない。しかし、この作品は全てを見渡すことはできない。だからこそ見える位置に動いたり、見えない部

分を想像する。また、那珂湊の日常の中に、普段と異なる感覚を得て、そして『DELT-A-MINATO』の全景を想像したときに、これまでの那珂湊とそれからの景色は少しズレて、新しい世界に見えるかもしれない。この『DELT-A-MINATO』というタイトルも、作品マップと作品を見比べて何かに気づいたら、という楽しさも隠されていた。設備が整ったあとに、作品を鑑賞していたら、編湊横の家の方が、うちの庭からならもっと見えるから、観ていきなさいと言ってくださったことも、この作品と、この場所の新しい出会いでもあった。

那珂湊駅の裏の百華蔵はイベントスペースとして用いられているが、その向かいにある工場跡では野村在による作品『You are gone, You are here』『Soul Reclaim Device (A portrait of my departed sister)』『Lightigure (12 seconds)』が展示された。工場跡はこの10年かは使われていなかった。2016年にMMMの展示として使用させていただいたが、梁や壁に斜めに沿った木など、空間が強く、広さはあるが、もしかすると多少使いづらい空間かもしれないと感じていた。いわゆる美術館やギャラリーのような白い壁の空間ではなく、かと言ってコンクリート打ちっ放しのある種整然とした空間でもない。工場であったことも残っている空間からはわからない。そのような場所に、かつて確かに存在したものの、だが消えてしまったものを野村の作品は表した。人間の魂に色や形があれば、それはどういうものだろう、というテーマを持つ野村の作品はストレートに響く。響いて、内側から揺さぶられる。那珂湊、この工場跡にて制作した『You are gone, You are here』は「YOU」という文字が並ぶ彫刻だ。「あなた」を意味する立体は中空であり、覗き込めば工場跡の壁が見える。触れれば折れてしまいそうな作品の細部は、その緊密さが空間を占めている。工場跡の空気は野村の3点の作品と、そして対峙する自分自身が滲み出て充滿するようにも感じる。水槽にゆらくインクや、12秒の時間を凝縮した写真と、3つの文字は、鑑賞者にここではないが確かに在る永遠を垣間見せる。その確かな時間と「あなた」は鑑賞するひとによって異なるかもしれない。しかし、そこで生じた「なにか」はこの工場があった場所にも、そして「あなた」の内側にも、見えないけれど消えないものとして残った。

10回目のみなとメディアミュージアムは、キレイや美しいではなく、視座を変えながら、「なにか」と向かい合う作品が揃った。

少しだけ個人的なことを。この10年で250組を超える作家に那珂湊や湊線沿線で展示をしていただきました。毎年お世話になった方も、感謝の気持ちは毎年積み上がっていきます。ですが、私はその分をお返しできているかは甚だ疑問です。学生スタッフも毎年大変な思いをしながら、キャバオパーしながら頑張っている姿を見て、フォローをしきれなかったことも何度もありました。学生のスタッフに向かい合うことしかできませんでした。夏、短い時間に一気に成長する姿や、毎年伸びていく姿を見て、得るものが大きいのは私の方だと感じます。素晴らしい展示にしようとして、最初に書いたように何か新しい視点や感覚を得てくれたらとても嬉しいですが、それ以上に素晴らしい作品の完成に立ち会えたことの喜びは学生スタッフの皆さんにも負けずに、そして鑑賞していただいた皆様にも劣らず大きいものでした。目には見えずとも、数字に残らずとも、たとえばまた10年後には確かに変わっているかもしれないことを信じています。今年展示していただきました作家に心からの感謝を。ご協力いただきました多くの皆様、スタッフの皆さんにも、そして作品と対峙してくださったあなたに。

MMM2018チーフキュレーター 橋口静思

MMM2019 に向けて

2018年、みなとメディアミュージアムは10回目の開催となります。10年前に突然那珂湊にきたアーティストと学生たちは「よそもの」として見えていたでしょう。それから10年間、夏の那珂湊には青いTシャツのスタッフがいることが定番となり、少しずつ活動も浸透してきたように思います。

MMMは2009年から今までに多くの方々にご来場頂きました。また、テレビ東京、NHK水戸、ケーブルテレビ茨城、IBSラジオ茨城放送、茨城新聞、常陽新聞、交通新聞など、多くのメディアにも取り上げて頂きました。いばらきイメージアップ大賞受賞、茨城デザインセレクション選定など外部からの評価も高まりつつあります。

10年を節目として考え、2019年からは再始動するつもりで準備を始めています。どのようなカタチになるかは未だ答えが出ていませんが、いずれにせよ那珂湊でMMMが活動することには変わりはありません。那珂湊でMMMスタッフを見かけたら、引き続き温かく見守っていただければ幸いです。

MMM2018プロデューサー 中村泰之

協賛一覧

常磐大学地域連携センター

常磐大学オープンカレッジ秋冬講座 9月12日(火)受付開始!
詳しくは大学ウェブサイト
<http://www.tokiwa.ac.jp/region/opencollege/index.html>

常磐大学
常磐短期大学 〒310-8565 茨城県水戸市見町1-430-1 TEL:029-292-2511(代表)



なりたいわたしに近い大学。

宝塚大学 東京メディア芸術学部
東京新宿キャンパス 〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目11番1号 ☎03-3367-3411
有馬学園 大阪梅田キャンパス 〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田1丁目13番16号 ☎06-6376-0853

おらが湊鐵道応援団

〒311-1222 ひたちなか市海門町2-8-13
(ひたちなか商工会議所那珂湊支所内)
TEL 029-263-7811/FAX029-263-6859

○応援団フェイスブック(ファンページ)
<http://www.facebook.com/MinatoLineSupporters>
○応援団ツイッター (@keha601)
<http://twitter.com/keha601>



ひたちなか商工会議所

○本所 〒312-8716 茨城県ひたちなか市磯田中央14-8
TEL:029-273-1371 FAX:029-275-2666
URL <http://www.hcci.jp> E-mail:info@hcci.jp
○那珂湊支所 〒311-1222 茨城県ひたちなか市海門町2-8-13
TEL:029-263-7811 FAX:029-263-6859
E-mail:minato@hcci.jp



ビルダー株式会社

<http://builder-resix.com>
TEL 029-219-6651
FAX 029-219-6654
ひたちなか市帆通町23-1



横信建材工業(株)

TEL 029-262-3927
<http://yokoshin-k.jp>

医療法人社団 克仁会 0-0

恵愛小林クリニック

診療時間/9:00~12:00 14:00~17:30
休診日/水曜午後・日曜・祝日
ひたちなか市幸町16-1 ☎ 029-263-0651



コマツ茨城株式会社 本社
茨城県水戸市吉沢町358-1
TEL 029-304-3810

茨城の新土産「駅名菓トレンシェ」



社会福祉法人はまきくの会 ハートケアセンターひたちなか
住所:茨城県ひたちなか市磯田町23-1
TEL:029-264-1500 FAX:029-262-6260

川崎 クリーニング



ひたちなか市釈迦町9-26
TEL 029-262-2895

一般建築士事務所
有限会社 荻建築設計事務所
〒310-0841
茨城県水戸市酒門町4270-2
TEL:029-248-0121 FAX:029-248-1840
<http://www.oigeki.co.jp>

水道、設備工事
ひたちなか市南神数台3665
電話 029-263-2535

常陸設備工業(株)

～建築にもっと夢がある～
飛田工務店
住所:ひたちなか市磯田町1-11-1
TEL:029-262-2501
安藤肉店
住所:ひたちなか市磯田中央1-13-1
TEL:029-263-3600
企画・印刷・デザイン
みなと新聞社
住所:ひたちなか市磯田町14
TEL:029-263-6753
焼きそばも提供
大川商店
住所:ひたちなか市磯田町25-2
TEL:029-262-3600

曜日別定食がおいしいお店
日の出屋食堂
住所:ひたちなか市釈迦町22-2
TEL:029-263-0768
こまつや
住所:ひたちなか市磯田町25-4
TEL:029-262-4567
つまみでおいしいお米
梅藤米穀店
住所:ひたちなか市磯田町13-2C
TEL:029-263-7888
お米一箱
八百長米穀店
住所:ひたちなか市磯田町4-25
TEL:029-262-2616

那珂湊のお土産は伊勢増へ!
伊勢増
住所:ひたちなか市磯田町3-1
TEL:029-263-1411
オレシの屋敷のお店
しらと理容院
住所:ひたちなか市幸町9-12
TEL:029-262-4809
おもてなしが素敵な宿
藤屋ホテル
住所:ひたちなか市磯田町13-3C
TEL:029-262-4141
ほいしいもとジェラートのお店
大丸屋
住所:ひたちなか市磯田町16-38
TEL:029-263-7777

あまんとギフトのお店
玄宝屋(シャディサラダ館)
住所:ひたちなか市磯田町14
TEL:029-262-0289
(有)大藤興産
住所:ひたちなか市田中健6-2
TEL:029-262-4303
住まいの相談くま・熊・熊ノ
(有)石井畳工業
住所:ひたちなか市田中健33-4
TEL:029-262-0860
廣角書院の居住出し宅配弁当
小藤屋(有)湊給食センター
住所:ひたちなか市磯田中央1丁目6-18
TEL:029-262-2534

水と暮らしの調和を追求して
SHINWA
水戸市 神和工業
〒310-0266 茨城県ひたちなか市磯田町10
TEL:029-263-7276 FAX:029-262-5264

趣味の器・贈答品・業務用食器
**** **大坂屋** ****
〒311-1221 茨城県ひたちなか市磯田町13-12
TEL 029-263-7002 FAX 029-243-0269

公団資材・遊具・ベンチ・トイレ・外構
緑木・つくばグリーン・創緑社・ソーラー照明
和知商事株式会社
〒310-0812 茨城県水戸市磯田町7-10
TEL:029-262-0824 FAX:029-262-0825
〒308-0001 茨城県水戸市磯田町1-1
TEL:029-262-0824 FAX:029-262-0825
URL: <http://www.wachisai.co.jp>

産休明けから就学前まで
社会福祉法人 敬福福祉会
堀川保育園
あまのいずみ、かんばるま、やさしいまの3つの保育園を運営し、乳幼児からこども達への成長を支援。
子育て支援を推進して、豊かな地域社会の実現をめざします。
〒311-1228 茨城県ひたちなか市磯田町1-14
TEL:029-263-0271 Fax:029-263-0262
E-mail:info@horiuchi-ho.co.jp

電気屋 (株)堀口電設
ひたちなか市大字中根4929-6
TEL 029-272-0170
FAX 029-272-0170

茨城県水戸市磯田町10-1 新築自動車整備工場
新築自動車整備工場 自動車修理・自動車整備
〒310-0266 茨城県ひたちなか市磯田町10-1
TEL:029-221-2904 FAX:029-221-2904
TEL:029-221-2904 FAX:029-221-2904

水戸土建工業株式会社
建設業 水戸市磯田 4-10-41 TEL 224-1006

豊かな生活環境の創造と環境保護。
その周知と啓蒙を目的として……
菅原建設株式会社
本社:茨城県水戸市磯田町1-2-33
電話:029-224-6561
URL: <http://www.sagawa2.com>

西野工業 株式会社
Nishino
〒312-0017
茨城県ひたちなか市磯田町2-14-2
TEL 029-274-2422
FAX 029-275-2501

設備工事
那波屋工業
茨城県ひたちなか市磯田町28-17
TEL 029-262-2839

日新火災海上保険・メットライフ生命
損保ジャパン・日本興業保険 代理店
株式会社 高倉保険事務所
〒310-0053 水戸市磯田町1-5-14
TEL 029-223-9574 FAX 029-223-9578

お仏壇の **佐久間**
ひたちなか市磯田中央2-8-6
TEL:029-263-5588

株式会社 **助川 建材**
〒319-2201 茨城県水戸市磯田町1-0-0-2
TEL 029-263-6008 FAX 029-263-6008

勝田機材株式会社
〒310-0811 茨城県水戸市磯田町1-0-1-1
TEL 029-263-0211 FAX 029-263-0215

コンクリート二次製品・製造販売
小川原セメント工業株式会社
茨城県茨城県那珂市磯田町小磯2119-1
TEL:029-292-9618
<http://www.okawara-c-i.co.jp>

(株)高田屋材木店
TEL 029-263-7001
茨城県ひたちなか市田中後7364

屋根 外壁 雨樋 太陽光発電
建築板金工事一式
有限会社 **荒井工業所**
〒310-0841 水戸市磯田町10-26
TEL 029-247-7315 FAX 029-247-6943

株式会社 広報社
Creative Signs & Design
デザイン・企画・設計・施工
〒310-0841 水戸市酒門町4342-1
TEL:029-247-8071 FAX:029-247-8006

業務用 中華麺 焼きそば麺
(有)わたなべ製麺所
☎029-263-1565
watanabe-men.com

井上工務店
〒310-0811 茨城県水戸市磯田町1-0-1-1
Tel:029-263-0211 Fax:029-263-0215
<http://www.inoue-koumu.co.jp>

茨城日野自動車株式会社
ひたちなか支店
〒310-0001 茨城県水戸市磯田町1445
TEL:029-265-0611 (代表)
FAX:029-265-0637

(有)環境保全サービス
〒310-0844 茨城県水戸市磯田町63-10
Tel:029-245-3445 Fax:029-245-9108
<http://www.kankyo-hoken-s.com>

建築・内装・土木工事
有限会社 **益子工務店**
水戸市河和町4273-2
029-252-7306

建設・防犯・区画・造園・サインボード
照明灯・カラー・フェンス・防犯・防犯
株式会社 ループ安全
〒311-1228 茨城県ひたちなか市磯田町2-10
TEL:029-262-3081 FAX:029-219-4606

地魚安楽 **久楽**
ひたちなか市磯田町18-18
(那珂湊水戸市場内)
電話 029-263-2210

一般社団法人 茨城県建築士会
青年・女性委員会
〒310-0802 水戸市磯田町10-30 建築士会館
Tel:029-305-0329 Fax:029-305-0330
e-mail:kay@shikankai.com Webサイト: <http://shikankai.com>

花の専門店 **花しん**
ひたちなか市磯田町16-10
電話 029(262)3008

鳥音 TORIOTO
〒311-1225 茨城県ひたちなか市磯田町11-27
TEL (029)262-3336

菓子問屋 **Maeo**
株式会社 前田
〒310-0504
茨城県水戸市磯田町4566 製造販売所
TEL:029-224-4445 FAX:029-239-3580

DESIGN STUDIO **T**
あまのデザインを大得意ひもとへプレゼン
〒310-0817 茨城県ひたちなか市磯田町18-1-1
TEL:029-263-8371

お弁当の専門店
(有)はるのや食品
TEL:0120-26-0509
住所:八幡町5-8
営業時間:8:00~18:00

和の味、和の心
和の味、和の心
TEL:029-262-0824 FAX:029-262-0825
URL: <http://www.wachisai.co.jp>

AMUSEMENT

マルチメディアサポート・音響組合
～ 愛のこころに ～
MSC
Multimedia Support Cooperative
水戸市磯田町1750-9
TEL 029-244-5568 FAX

建築・内装・土木工事
有限会社 **益子工務店**
水戸市河和町4273-2
029-252-7306

でんき TMでんき TM光 (電気料金)
で毎月かかるコストを削減!!
株式会社 **ティーエムユニオン**
〒310-0851 茨城県水戸市磯田町1950
TEL 029-303-8681(代) FAX 029-303-8682
URL: <http://www.tmunion.net/>

水戸市磯田町1750-9
TEL:029-244-5568 FAX:029-244-5568
URL: <http://www.wachisai.co.jp>

< 防災・通信・電気・セキュリティ >
MBT
ミナト防災通信工業株式会社
www.minatobousai.co.jp

すべては 子供たちの 未来のために
勝田環境株式会社
ひたちなか市磯田町1967-2
TEL 029-265-8851 FAX 029-265-8850

吉田石油 **ENEOS**
ひたちなか市磯田町1-1
029-263-6177

